



事業名 文化・子育て複合施設「おにクル」 ～ 新しい活動や場を生み出す共創の中心地 ～



取組の概要

茨木市は2023年11月に文化・子育て複合施設「おにクル」をオープンします。様々な機能が集まるこの複合施設は、市民や事業者、行政といった主体に関わらず、あらゆる機能や活動が交わり、相乗効果を発揮する新しい活動や場を生み出す「共創の中心地」となることを期待しています。

建物の北側に広がる芝生広場を含めたエリア全体のキーコンセプトは「育てる広場」です。オープン前から、そして、オープンしてから、どのように使って考えていくかを市民の皆さん自身も考え、皆で作り上げていく施設になります。ここを拠点として連携、共創が茨木市内のあちこちに広がっていくことを目指していきます。

子育て支援のワンストップ機能も備えた新施設「おにクル」



旧市民会館の老朽化により取り壊しが進む中で、近隣全体を再開発することとなり、その一期として新施設「おにクル」が建築されました。

おにクルとは、文化ホール、子育て支援、図書館、市民活動センター、プラネタリウムなど多くの機能が入る複合施設です。おにクルという名前は、6歳の男の子の「怖いオニさんですら来なくなる楽しいところ」という思いから名づけられました。様々な機能を持つ施設にすることで、活動の交流や新たな人の関わりの創出を促します。

子育て支援に関しては、おにクル内に「子育て支援センター」を設置し、遊びに来たついでに気軽に相談しやすい環境を提供していきます。これまで点在していた子育てに関する支援機能を集約することで、妊娠・出産・子育てという様々な相談にワンストップで対応していきます。

キーコンセプトは「育てる広場」



おにクルと建物の北側に広がる芝生広場を含めたエリア全体のキーコンセプトは「育てる広場」です。どのように使って、どう変えていくか市民と行政が一緒に考え、育んでいく場にしたという思いが込められています。このキーコンセプトや閉館した市民会館の跡地利用方法は、市長と市民との対話を通して決定されました。

おにクルの北側に広がる「IBALAB@広場」は、“つくって”“つかって”を繰り返し、ルールや設えを検討しながらバージョンアップしていく「ハーフメイド」の広場です。市民と行政が一緒になって、芝張りからベンチづくり、花木の寄せ植えなどを行い、広場を作っていました。

施設や広場を「つかう」だけではなく、ルールを含めて市民自身が「つくる」段階にも入ることで、みんなで一緒に「育てる広場」を目指していきます。

2025 大阪・関西万博に向けて



茨木市は、大阪・関西万博の公式プログラムである「TEAM EXPO 2025」において、「共創パートナー」として登録されています。おにクルや安威川ダム周辺施設などの取組を通じ、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に向け、誰もが安全で安心、健やかに暮らすことができ、一人ひとりが「豊かさ・幸せ」を実感できる地域づくりを目指していきます。

そのために、まずは全市民28万人のおにクル体験を目標に、「おにクル」くる!クル!大作戦として、11月の開館から1年間事業を積極的に展開していきます。

こうした取り組みをはじめとして、SDGs目標の達成にもつながる、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある、一人ひとりが輝けるまちを市民と行政で共創していきます。



問い合わせ先：茨木市 市民文化部 共創推進課

担当者：向田

URL：https://www.onikuru.jp

Mail：kyousou@city.ibaraki.lg.jp

